

一言一句



「鉄骨ファブが仕事を進めていく上で重要になるのは構造図。図面承認の遅延の解消に協力をお願いしたい」と話すのは、広島県鉄骨工業会の山本泰徳理事長（ステントス社長）。12日、日本建築学会中国支部、日本建築構造技術者協会（JSCA）中国支部と共同で

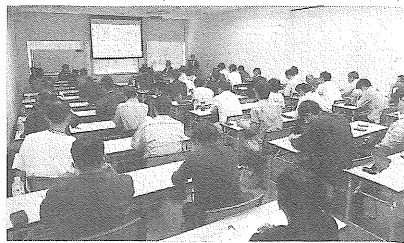
図面承認の遅延解消を

開いたセミナーであいさつに立ち、協力を仰いだ。鉄骨製作の現場では技術者不足や時間外労働の上限規制、資材高騰の影響を受ける中、元請けの図面承認の遅延により納期対応などの負担を強いられている。図面が無い、材料や仕様が決まっていないなどの理由で、材料発注や鉄骨製作が進められないことが多くある。また、構造図に鋼種が分からない材料が記載されているケースがあることも指摘。時代の変化に合わせたBIM対応の必要性についても触れた。（長）

鋼構造セミナー開く

広島県鉄骨工業会、50人参加

広島県鉄骨工業会（理事長＝山本泰徳・ステントス社長）と日本建築学会中国支部、日本建築構造技術者協会（JSCA）中国支部は12日、広島市で第16回鋼構造セミナーを開催、鉄骨ファブリケーター、セネコンや設計事務所的设计担当者など約50人が参加した。「鉄骨製作における



セミナーの様子

疑問点と要望」をテーマに、構造設計者と鉄骨製作者によるパネルディスカッションが行われた。

開会あいさつに立った日本建築学会中国支部構造委員長の松野一成・呉工業高等専門学校教授は「こうして鉄骨製作の実務に携わる方々と接触する機会は少なく、本日は皆さまにとって実りあるセミナーにしたい」と述べた。

パネルディスカッションには、広島県鉄骨工業会青年部会から光村圭介部会長（ミツヤ工業常務取締役）、遠藤健太顧問（遠藤工業専務）、JSCA中国支部から村瀬忠之支部長らがパネリストとして登壇。通しダイアフラムの段差や柱の絞りなどの仕口関連、ブラケット形式とノンブラケット形式の比較、小梁接合部のガセットプレートの切り欠きといった接合部、冷間コラムR部の溶接などについて質疑応答が行われた。めっき関連のパネルディスカッションでは、溶融亜鉛めっき加工を手掛けるガルバ興業・三原工場（広島県三原市）の担当者も交え、めっき処理する鉄骨の鉄骨製作時の注意点などについて意見交換を行った。

セミナーの最後には、広島県鉄骨工業会の山本理事長と青年部会の光村部会長が構造設計者に向け、図面承認の遅延といった鉄骨製作図問題の是正や解消に向けた要望を伝えた。